

令和 2 年度 事業報告

I 事業の実施状況

今年度は、新型コロナウイルスの蔓延で事業の縮小を余儀なくされたが、海上保安庁及び傘下各地区の協力を得、次の事業を実施することができた。

活動名	実施内容
1 教育活動	<p>教育活動として次を行った。</p> <p>(1) 海上安全指導員、海上保安官、小型船舶の運航・機関取扱熟練者及び海事・救急専門家等が講師となり、プレジャーボート関係者等からニーズの高い議題に沿った資料を配布するとともに、プロジェクター等を活用して分かり易い講演を行い、また、質疑等が活発に交わされた。</p> <p>今年度も昨年度に続き、「救命胴衣の着用及び見張りの重要性」を強く啓蒙した。</p> <p>1回 20名</p> <p>(2) 海上安全指導員(以下、「指導員」という。)の資質向上を目的に、第6項第5号の委員会に指導員を参画させた。</p> <p>6回 6名(1回1名)</p>
2 安全活動	<p>安全活動として次を行った。</p> <p>(1) 指導員連絡調整会議</p> <p>現場指導等を計画的に実施するため連絡調整会議を実施した。</p> <p>1回 6名</p> <p>(2) 安全パトロール</p> <p>(巡視船艇との合同パトロールを含む。)</p> <p>指導員が安全パトロール艇に乗船の上、プレジャーボート関係者に対する安全指導を実施した。</p> <p>156回 604隻</p>
3 海事思想普及活動	<p>幼稚園児、小中学生の少年少女が参加できるイベントを通じて、海洋レジャーの楽しさや安全知識の普及啓蒙活動を行う「海洋教室」等を開催した。</p> <p>2回 70名</p>

4 広報活動	<p>小型船の安全運航に寄与するパンフレット及びリーフレットを作成し、関係者に配布した。</p> <p>15回 6,400部</p>
5 その他の活動	<p>安全啓もう活動として次を行った。</p> <p>(1) ラジオ(FM)での安全広報(月1回)</p> <p>(2) 安全啓もう用マスク配布・(500枚)</p> <p>(3) 釣り大会・清掃活動等への支援(7件)</p>
6 会議等への参画	<p>小型船の安全に関する各種委員会等に委員として参画し、小型船の安全航行の立場から発言した。</p> <p>(1) 小型船舶の安全確保対策連絡会議(主催：六本部)</p> <p>(2) 中国地区舟艇利用振興対策連絡会議(主催：中国運輸局)</p> <p>(3) 四国地区舟艇利用振興対策連絡会議(主催：四国運輸局)</p> <p>(4) 広島県放置艇対策連絡会議(主催：広島県)</p> <p>(5) 瀬戸内海港湾における船舶の航行安全性検討委員会 (主催：公益社団法人瀬戸内海安全協会)</p> <p>(6) 令和2年度海難防止団体等連絡調整会議 (主催：日本海難防止協会)</p>
7 会議の開催等	<p>(1) 通常総会1回(書面表決)</p> <p>(2) 理事会2回(書面表決)</p>

II 会員の状況(令和2年3月31日現在)

会員区分	会員数
正会員	7団体
	2法人
特別会員	14名
賛助会員	13法人